

教科	家庭	科目	生活教養	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			選択

教科書	図説 家庭基礎	副教材等	
-----	---------	------	--

1 学習の目標

1年生で履修した「家庭基礎」での学びをもとに、衣食住、高齢者とのかかわりと福祉、消費生活などに関する知識と技術をより一層高め、生活課題を主体的に解決するとともに、実践的な態度を育てる。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を想像し、実践しようとしている。
評価の方法	☐ 作品提出 ☐ レポート提出	☐ レポート提出 ☐ 作品提出 ☐ 定期考査	☐ 学習活動の状況 ☐ 実習・ワークシートへの取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- 1 授業中の発問に積極的に答える姿勢は、「関心・意欲・態度」の面で評価します。また、理解できないところは質問するようにしましょう。
- 2 実験・実習は目的を理解し真面目に取組み、レポート（プリント）や作品は必ず期限までに提出することが基本です。他の課題も期限を守りましょう。
- 3 課題やプリントは自分の頭で考え、自分の言葉で書くことが重要です。書いた内容は「思考・判断」として、書くことそのものは「技能・表現」として評価されます。
- 4 授業では黒板に書かれたこと他、担当教諭の話した内容もメモをとるようにすると良いでしょう。
- 5 定期考査は授業内容を中心に出题します。授業には集中して取り組みましょう。

年間授業計画

	月	単元	学習内容・目標(到達点)	評価資料・方法	評価の観点		
					①	②	③
前期	4	学習内容のオリエンテーション 「分野学習」 ・家庭科の各分野について	年間の学習内容、注意事項等提示 ・自分の生活や進路とより関わりの深い内容について主体的に学習し、知識・技能を身につけるとともに、他者へ伝えることでより生活の場面で実践する意識と能力を高める。	ワークシート レポート	○	○	○
	5					○	○
	6	「衣生活」 ・持続可能な衣生活をつくる	・健康で快適な衣生活を営むための知識と技術を習得する。	実習 レポート	○	○	○
	8	「ホームプロジェクト」 ・課題発見・テーマ決定 ・計画・実施	・栄養素の種類とそのはたらき、調理および食品衛生について科学的に理解し、今後の食生活の充実・向上を図るための知識と技術を習得する。	ワークシート レポート	○	○	○
	9	・反省・評価 ・発表					
後期	10	「食生活」 ・五大栄養素 ・食品の安全	・栄養素の種類とそのはたらき、調理および食品衛生について科学的に理解し、今後の食生活の充実・向上を図るための知識と技術を習得する。	ワークシート レポート	○	○	○
	11	・献立作りと調理 ・食事のマナー ・日本の食文化 【実習＝調理実験、調理実習等】	・和食文化についての理解を深める。 (※座学での授業に関連させた調理実習、実験を適宜実施)	実習 レポート	○	○	○
	12	・防災食	・災害時の食の課題を知り、実践を通して必要な備えや工夫を習得する。	実習 レポート	○	○	○
	1	「消費生活」 ・生活情報の活用 ・消費者問題の現状と課題 ・消費者の権利と責任 ・家庭経済	・消費生活の現状と課題を理解し、消費者としての正しい目を養い、適切な意志決定に基づいて、責任を持って行動できる能力を養う。	ワークシート レポート		○	○
		反省とまとめ 1年間を振り返って				○	○

* 評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に取り組む態度